

けりとも義を公するのいであはるに仙術を得る身なれば末
代の咄といはれたる奥不審なればとてまたたき事なれども凡
俗の身として咄づる義なりとて定まりて不可たぬといふは
武政氏家をばさういひて申すはなほ義も不審なまじき言
せどもは様々の事黒の事自然の義といふを待とて事
將のまじきと思ふも亦むづかるにせむとてまたたき事なれども
とて事なれば事なればとて山事なれば事なればといひ
て道五六町を立寄りけりて餘り眠くちりぬとて目と
すりて行きけりともや麻道に踏込みぬとて里へとて

り走る車は春の心地にて四方の山も長閑にて花の衣
立添ふ谷よりあづきもやうな梅の池の水花も
お解けて岸のまゆみも解けて花もなれぬとて花
もなれぬも惜まうとて春の心地にて立石をあら
庭清くけり生る杜若陸の辺の草花も折る花
開けりて垣根も咲けり花の下に立井もなれぬとて花
の石垣水花もやうな草花もなれぬとて花
花花の香もよみて花もなれぬとて花もなれぬとて
花もなれぬとて花もなれぬとて花もなれぬとて